

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4671100180
法人名	医療法人椎原会
事業所名	高齢者グループホーム有馬館
訪問調査日	平成21年7月15日
評価確定日	平成21年8月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671100180
法人名	医療法人椎原会
事業所名	高齢者グループホーム有馬館
所在地	南さつま市加世田地頭所570番地 (電 話) 0993-53-3667
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年7月15日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年9月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.9 人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(141,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.2 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人椎原会 有馬病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内中心部の大型商業施設が点在する地域に、母体病院をはじめとする関連の施設と同一敷地内に建てられたホームである。隣接するデイケアやリハビリ施設を利用される顔なじみの方々と、日頃から交流を図るなどして地域に密着したケアが行われている。母体病院にも隣接しており、医療面は勿論のこと、災害時を含む緊急時の協力体制も充実している。また、職員が自宅から古い道具を持ち寄り回想法に取り組むなど、利用者主体のケアを実践しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題とされた夜間想定避難訓練を、消防署の協力のもと、ご家族や地域の方々にも参加していただいで実施している。また、備蓄として、飲料水や乾パン、黒砂糖等の非常食を準備している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の項目毎に意義を確認しながら、職員間で分担して記入し、さらに全職員で検討を行った上で管理者がまとめている。また、外部評価の結果については、ミーティングにおいて改善策を話し合い、迅速に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者およびご家族、自治会長や民生委員、行政担当者、協力医療機関医師が参加している。ご家族の要望でホーム敷地入り口に看板が設置されたり、自治会長からの提案で地域の清掃活動に参加するなど、会議の成果をサービス向上に活かしている。また、行事や避難訓練にも参加してもらい、実際の取り組みを見てもらう機会も作っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	行事に合わせて家族会を年2回開催し、ご家族からの意見や要望を聞く機会を作っている。また、面会時に出された相談や要望は、申し送りノートに記載したりミーティング等で職員全員へ周知し、運営に反映できるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市の文化祭や夏祭り、小学校の運動会に参加したり、利用者が作成した雑巾を小学校に寄付するなどしている。自治会の清掃活動にも参加しており、老人会の集会をホームで行えるように働きかけるなど、地域との交流を積極的に行っている。

2. 評価結果詳細

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解した上で、職員全員で見直しを行い、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームや廊下に理念を掲示しており、毎週月曜日には職員全員で唱和している。尊厳とその人らしさを念頭に置いて日々のケアが行えるように、管理者は職員に事例を示しながら具体的な指導を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の文化祭や夏祭り、小学校の運動会に参加したり、利用者が作成した雑巾を小学校に寄付するなどしている。自治会の清掃活動にも参加しており、老人会の集会をホームで行えるように働きかけるなど、地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目毎に意義を確認しながら、職員間で分担して記入し、さらに全職員で検討を行った上で管理者がまとめている。また、外部評価の結果については、ミーティングにおいて改善策を話し合い、迅速に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者およびご家族、自治会長や民生委員、行政担当者、協力医療機関医師が参加している。ご家族の要望でホーム敷地入り口に看板が設置されたり、自治会長からの提案で地域の清掃活動に参加するなど、会議の成果をサービス向上に活かしている。また、行事や避難訓練にも参加してもらい、実際の取り組みを見てもらう機会も作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新時や、研修開催の情報収集等、市担当者と相談や意見交換を行っている。さらに、担当者が事業所に立ち寄り、暮らしぶりを見てもらう機会も作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回「有馬館便り」を発行し、写真を入れながら活動報告や行事計画、新人職員紹介などを行っている。面会時や電話で利用者の状況を報告し、月に一度は金銭出納帳の確認をしていただき確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事に合わせて家族会を年2回開催し、ご家族からの意見や要望を聞く機会を作っている。また、面会時に出席された相談や要望は、申し送りノートに記載したりミーティング等で職員全員へ周知し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者や入職者があった場合は、利用者やご家族へ報告して紹介をするとともに、入職者が利用者と馴染みやすいように、先輩職員が配慮しながら支援を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の委員会活動や毎月の勉強会に参加しており、外部研修にも交替で参加している。事業所内では、ミーティングの際に年間目標に沿った研修を実施しており、職員のスキルアップ支援も行っているが、段階に応じて育成するための計画は立てられていない。	○	さらなる資質の向上を目指して、職員の立場や経験など、それぞれの段階に応じた育成計画を立てて、学びの機会を確保していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム協議会に参加し、研修会等を通して交流を図っている。また、管理者が協議会の会計担当を務めており、当事業所で役員会を開催するなど、同業者との交流機会も多く、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来ていただき、お茶を一緒に飲んだりして雰囲気に馴染めるように工夫している。見学に出来ない場合は、自宅や病院へ面会に行き、安心感を持ってもらえるように配慮している。また、事業所独自の個別シートを使って、ご家族から生活暦を細かく聞き取り、生活に大きな変化を与えないように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌・漬物・らっきょう漬け・梅干しなど、利用者に教えてもらいながら職員も一緒に作っている。それぞれの方の経験から、和裁や農作業、調理など、知恵を貸していただく機会を多く設けて支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めるようにしており、記録に残して全職員に周知できるよう取り組んでいる。行事や食事の献立など、利用者と話し合いながら選択できる機会も作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族の意向や要望を聴取し、職員全員で意見交換・モニタリングを行い、介護計画を作成している。必要に応じて、かかりつけ医の意見やアドバイスを取り入れながら、計画作成に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、定期的な介護計画の見直しを、関係者と話し合いながら行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合、サービス内容の変更は行っているが、現状に即した新たな計画の作成には至っていない。	○	利用者の状態変化や状況に応じて、関係者の意見を取り入れながら、介護計画の見直しを行うことが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の訪問看護との連携により、定期的な訪問や状態変化時のオンコール対応などの支援体制を築いている。病院と通所リハビリテーション事業所が隣接しており、利用者との交流や緊急時の迅速な対応など、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な場合は職員が同行するなど柔軟な対応をしている。受診時には採血データや生活経過、バイタルチェック表の情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始前に、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明している。状態に応じて、ご家族や訪問看護師、かかりつけ医を交えて話し合いを行い、関係者間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや声かけなど、職員間で話し合いながら尊厳を重視した支援の徹底を図っている。入職者の指導の際には守秘義務と尊厳についての教育を実施しており、個人情報等の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・起床・就寝時間など、一人ひとりの状態や希望に合わせた過ごし方の支援をしている。また、裁縫や塗り絵など、本人のしたい事ができるように、特段の制限を設けずに希望を尊重した支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の今年度の目標である「食の楽しみを追求する」にあたって、勉強会を開きながら職員の意識向上を図っている。調理の下ごしらえや盛り付け、片付けを一緒にいき、近隣住民やご家族から差し入れられた季節の食材を使い、穏やかな雰囲気のもとで食事を楽しんでいる。また、誕生日には個別の希望メニューとするなど、特別な楽しみも取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の状況をチェック表に記録しながら、少なくとも週に3回は入ってもらうように支援している。大半の方は午前中に入浴され、「朝風呂は気持ちがいい」と喜ばれている。通常は一日おきの入浴であるが、希望により自由に入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花や農作業、調理や和裁など、生活歴や力量に合わせて力を発揮してもらえる機会を作っている。年に数回、外食に出かけるなどの楽しみごと支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族との外出の他、買い物や散歩、ドライブや墓参り、行きつけの美容室の利用など、希望に沿った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。外出されそうな場合は事前に察知して、引き留めずにさりげなく付いて行き、見守りを行いながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、法人が行う避難訓練に参加するとともに、事業所単独で夜間想定訓練も実施している。運営推進会議の際に訓練を実施するなどして、地域の協力が得られるよう働きかけを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の目安を定め、不足しがちな利用者に対しては観察を重視し、個別に詳細な記録を残している。食事摂取量はバイタルチェック表に記載しており、摂取状況の把握に努めている。栄養士資格を持つ職員が、栄養バランスを考慮しながらメニューを作り、職員に対する指導も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンから聞こえる調理の音や料理の匂い、玄関先に植えられた花々など、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く暮らせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの箆笥やテーブル、位牌や写真、装飾品などが持ち込まれており、居心地良く過ごせる配慮がなされている。		